

豊島区民への「立教ブックレット」配布

長野 香

はじめに

2007年11月、豊島区と区内6大学（学習院大学・女子栄養大学・大正大学・帝京平成大学・東京音楽大学および本学）が「連携・協働に関する包括協定」を結び、その一環として「としまコミュニティ大学」が始まりました。これにより12月から1月にかけて各大学の「紹介講座」が開催され、本学では12月7日に「蔦とレンガのキャンパスで学んでみませんか」というタイトルで約1時間の大学紹介をおこないました。この中で、立教ブックレット「立教の創立者 C.M. ウィリアムズの生涯」を参考資料として配布させていただいたので、講座の様子や受講者の反応について報告いたします。

「としまコミュニティ大学」の概要

「としまコミュニティ大学」とは、豊島区が上述の区内6大学（学習院大学・女子栄養大学・大正大学・帝京平成大学・東京音楽大学および本学）と連携して、さまざまな地域課題等に関する講座プログラムを展開する新しい取り組みで、特に「地域力の再生」と「地域の活性化」を図るための「まちづくりリーダー」を育てることを目的としています。この背景には、豊島区が、単身世帯率がきわめて高いことや、少子・高齢化の進展も23区内でもトップクラスであること、地域のニーズが多様化、複雑化していることなどが挙げられています（としまコミュニティ大学案内より抜粋）。

以上の目的のための本格的な講座は2008年度から開始となりますが、それに先立って行われた各大学の紹介講座を以下にご紹介します。

- ① 大正大学「大正大学の歴史・人・学び」
 - ② 東京音楽大学「みんなで楽しむ古楽の響き」
 - ③ 女子栄養大学「食事がつくる健康生活—四群点教法の実践」
 - ④ 学習院大学「当世ブランド事情～商品のブランドから地域のブランドづくりまで～」
 - ⑤ 立教大学「蔦とレンガのキャンパスで学んでみませんか」
- ※ 帝京平成大学の紹介講座は、平成20年のキャンパス開校後に開催

音楽鑑賞や学食の利用が盛り込まれたバラエティーに富んだ講座は、いずれも定員以上の受講申し込みがあり、受講者の満足度も高かったそうです。本学の講座にも60人定員のところ70人を超す申し込みがありました。

「立教大学紹介講座」について

本学では、大学紹介ということで広報課が担当となり、「できるだけ多くの人に興味を持っていただけるようなタイトルで」との区の要望から「蔦とレンガのキャンパスで学んでみませんか」という題で、大学の歴史、現状などの説明と、乱歩邸やチャペル、第一学食をメインとしたキャンパスツアーを行いました。

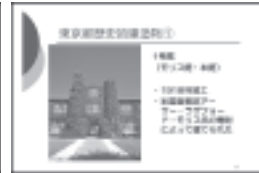
今回この講座では、豊島区民が対象であることから「レンガ造りのきれいな建物が並ぶ立教大学は基督教の大学だと聞いているが、いったいどういう大学なんだろう？」という素朴な疑問にわかりやすく答えてみよう、以下の点を意識して講座を組み立ててみました。

- キャンパスの写真などを利用してわかりやすく解説する
- 立教大学のおおまかな歴史を紹介する
- 立教大学の「基督教」の属性・特徴を伝える

以下は講座の内容とアンケート結果です。

① 講座内容

- (1) 学校法人 立教学院のご案内：立教小学校～立教大学
- (2) 立教大学の歴史：1874年ウィリアムズ主教による開設、1918年池袋移転、1990年新座キャンパス開校、現在の学部・学生数等
- (3) 池袋に移転当時の立教大学（スライド参照）
- (4) アメリカ聖公会とは？（スライド参照）
- (5) 立教大学の建学の精神
- (6) 現在の立教大学：池袋・新座両キャンパス
- (7) 東京都歴史的建造物（スライド参照）：1号館・第一食堂・図書館本館・チャペル
- (8) 立教の“つた”とレンガ
- (9) 江戸川乱歩邸
- (10) 立教のクリスマス
- (11) 最近のトピック：ヴィム・ヴェンダース氏、ムハマド・ユヌス氏



② アンケート結果

- (1) アンケート回収数：41
- (2) 内容

■年齢	(人)
10代	0
20代	0
30代	0
40代	2
50代	10
60代	9
70代	12
80代以上	4
無回答	4

■ 講座の内容について（主な意見）

好評 (27人)

- 立教の歴史、沿革がよくわかった（5人）
- 立教大学の（教育）内容がよくわかった（5人）
- 説明がわかりやすかった（3人）
- 建築についての説明が良かった（4人）
- 区内にこのような大学があって嬉しい（10人）

ご意見 (4人)

- 聞き取りにくい部分があった（3人）
- 参考にはなったが、興味までいかなかった。次回に期待（1人）

「立教ブックレット」配布の目的とその効果

今回のような大学紹介講座では「大学の歴史」と「キリスト教」について可能な限り正確に理解していただきたいと思う一方、時間の制約もあることから、立教ブックレット「立教の創立者 C.M. ウィリアムズの生涯」と「立教大学の歴史」を資料として配布し、講座の中でも引用させていただきました。立教関係者以外には馴染みの薄い「聖公会」と「ウィリアムズ主教」を説明する際には「立教ブックレット」の「1 立教の創立者 C.M. ウィリアムズ」と「3 『聖公会』という教会とその海外伝道」は実際のページを開いて見ていただくこともありました。これらの項以外でも、本書は、その時代の日本や世界の情勢を交えて描かれているため、一般的に知られている歴史的背景と比較しながら読めることや、キリスト教の入門書として、学外の方にも興味深く読んでいただける文献といえます。

講座終了後、受講者の方々から、「立教は自分が住んでいる地域にあり、とても身近な存在だったので、今回色々を知ることができてとても嬉しかった。」という感想を何人の方から聞きました。この2冊が受講者の方に「貴重な資料」として、大変喜ばれたことは言うまでもありません。

特筆すべきは、後日、「『立教の創立者 C.M. ウィリアムズの生涯』を読んで生きる希望を見出した。」と報告されたご婦人がいらしたことです。80歳を超えるというこの方は、戦争やご自身の病気などを経験され、「自分の人生には何も良いことがなかった。」と思っていたところ、このブックレットを読んで、ウィリアムズ主教の生き方を知り、人のために精一杯尽くしてきた自分の生き方は間違っていなかった、と安心

することができた、とおっしゃっていました。

おわりに

在学生や受験生に本学を説明する機会は多くありますが、地域住民を対象とした大学紹介講座はほとんど無いといえます。豊島区の担当者によると、区が主催した講座でこれほど多くの受講生が集まることは今まで無かったということですから、潜在的なニーズは高かったといえるでしょう。

今回の講座には高齢の方が多く参加されており、長くこの地域に住み、立教の歴史とご自身の歴史を重ねあわせ、本学への理解を深められていたようでした。立教の歴史は彼らの歴史の一部でもあるのです。大学の地域連携が注目される今日、地域の人々に実際にキャンパスに来ていただき、「立教大学」をより一層身近に感じていただけた今回の講座は、本学にとっても有意義な機会だったと確信しています。



講座の様子（於太刀川記念館）

ながの かおり
（立教学院企画部広報課）